

## 第 1 回生駒市商工観光ビジョン懇話会 議事要旨

<b>日時</b>	平成 2 8 年 8 月 1 9 日 (金) 1 0 : 0 0 ~ 1 2 : 0 0
<b>場所</b>	生駒市役所大会議室
<b>出席者</b>	参加者 池田、稲森、井上、大原、緒方、小川、唐金、久保 (浩)、久保 (左)、佐藤、菅、高枝、高橋、中村、西岡、林、久内 生駒市役所 平井、平田、知浦、巽、水澤、高橋、原田 アルパック 高田、石井  <div style="text-align: right;">(敬称略)</div>
<b>議事</b>	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 開会</li> <li>2 座長の選出について</li> <li>3 分科会の設置について</li> <li>4 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)生駒市商工観光ビジョン策定方針について</li> <li>(2)懇話会について</li> <li>(3)基礎調査について                 <ol style="list-style-type: none"> <li>①アンケート調査について</li> <li>②ヒアリング調査について</li> <li>③生駒市の商工観光に係る支援について</li> <li>④商工観光に係る支援機関について</li> <li>⑤生駒市商工観光振興の現況データについて</li> </ol> </li> </ol> </li> <li>5 意見交換</li> <li>6 その他</li> <li>7 閉会</li> </ol>

### 【議事要旨】

#### 1 開会

#### 2 座長の選出について

事務局 : 座長の選出についてどのようにすればよいか。

参加者 : 事務局一任。

—各了承—

事務局 : 菅にお願いしたい。

—各拍手で承認—

#### 3 分科会の設置について

—事務局より分科会の設置及び各分科会への参加者の提案—

座長 : 分科会設置に関する事務局提案についてご意見はあるか。

—意見なし—

座長 : では、分科会の設置及び参加者についてご承認をいただいたとして進める。

#### 4 報告事項

座長：報告事項については、先に全ての資料説明をしてもらい、後ほどまとめて質問や意見交換の時間を設けたい。

- (1) 生駒市商工観光ビジョン策定方針について
- (2) 懇話会について
- (3) 基礎調査について
  - ① アンケート調査について
  - ② ヒアリング調査について
  - ③ 生駒市の商工観光に係る支援について
  - ④ 商工観光に係る支援機関について
  - ⑤ 生駒市商工観光振興の現況データについて

座長：統計データを奈良市と比較しているが、もっと特徴を踏まえた都市との比較は難しいのか。

事務局：資料7の2頁「③市内就業率」などで京都府京田辺市や大阪府東大阪市など、近接するいくつかの自治体を掲げているが、もう少し共通性のある自治体などのデータ整理も必要ではないかと考えている。今後、紹介していきたい。

#### 5 意見交換

座長：本日は1回目の会議でもあり、全員からご意見をいただきたい。

参加者：観光協会は60年を超える歴史がある。

：宝山寺や生駒山などの資源を有するものの、大阪と奈良市には生まれ観光客の誘致は難しい。「生駒市の新しいお土産コンテスト」や「観光フォトコンテスト」などに取り組んできたが、もっと市民が観光に意識を向けてくれるようなことも考えたい。

：大阪などはインバウンドによる集客を強化している。本市でも宝山寺参道の旅館を中国資本が買収し、外国人が宿泊するといった事例が現れているが、今後はインバウンドも含め、観光資源を整備し、他産業を巻き込んで何かできることがないか考えたい。

参加者：駅前の商店街で連合会をつくり、近鉄百貨店や近商ストアとともに組織づくりをして活動してきた。ただ消極的な話になるが、商店街の現実は全国的に厳しい。近鉄百貨店も当初の売上から大きく下がっているようである。商店街も8つあった商店街組織のうち、会長の後継者難などから3つが解散、また駅前では小売業が減って学習塾、理美容、不動産などが増えている。自前の商店を廃業する際に賃店舗にするという流れがあることも理由だろう。

：後継者に継いでもらえる店にするには、親子二世帯が生活できるだけの収益を確保することが必要で、それができるようにするため、頑張りたい。

参加者：有機栽培や化学肥料を使わない農業に取り組んでいるが、なんとんでも最近の農業の課題は天候。紫外線が強く、作物や葉が日焼けして

しまう。葉が日焼けすると作物も良い物にならない。遮光するしかない。最近では夕立も少なく、これでは新規就農者がいても、生活できないのではないか。

: 市街地の生産緑地で営農しており、田んぼは湧き水で何とか賄っているが、野菜は水道水を使わざるを得ない。今後も環境問題に取り組んでいくことは重要。

: 作物の加工など6次産業化を若手中心に頑張ってもらい、儲かる農業にしていきたい。現在もベルテラスの売り場で地元産品の販売等も行っているが、今後もコラボしていきたい。

参加者 : 生駒市は基本、住宅都市であり、今後、どんな産業起こしをしていくかを考える上では、居住する優秀な人材の知恵を集めることも必要ではないか。

: 住むには良いが、働く場がない。学研生駒テクノエリアや高山第2工区へのチャレンジも必要だろう。また、既存の商工業者への支援のあり方についても議論をいただき、商工会議所も行政とともに取り組んでいきたい。明るい未来、夢のあるビジョンになるよう、皆さんのお知恵をお借りしたい。

参加者 : 当店近くにはインターチェンジがあり、インターに乗る人、あるいは帰って来た人がよく立ち寄ってくれ、そうした人から当店の商品はとても生駒らしいと言われる。例えば生駒らしいスイーツ商品の店を紹介するなど、訪れた人に活気あるまちだ、魅力あるまちだと言われるようにしたい。

: 私自身は子どもが1歳半の時に店を始めたが、一般にはそうしたチャンスをつかむための情報が欠けている。意欲のある人が情報を得ることができるワンストップ機能があると良いと思う。

: 女性就業率が低いというデータがあるが、結婚時や妊娠時にやめる女性が多い。子どもを育てながら働き続けることへの不安があるのだろう。また、再就職時、あるいは産休後にも、自分のスキルが通用するかどうかという不安がある。再就職（または復職）を目指す女性がスキル、メンタルを保てるようにできないか。

参加者 : 生駒市の観光資源には生駒山や宝山寺があり、宝山寺には年間100万人の来訪者がいる。山上に遊園地があるというのも珍しいだろう。資源として見直したい。

: かつて生駒駅前には大鳥居があった。そうしたまちのシンボリックなものをつくることも考えたい。

参加者 : 学研生駒テクノエリアには85の工業事業所があり、2500~3000人がそこで働いている。当社は大阪に適当な立地場所がなかったこともあり、25年前にこの場所に来た。

: 私自身も大阪から通っているが、市内企業で働きたいと考えている生駒市民もいるだろう。しかし学研生駒テクノエリアへの移動手段がない。近隣の住宅街からはバイクや自転車で来てくれる人もいるが、中心部からは工業団地まで坂道を25分くらいかかる。人を募集しても、

車がないので応募できないという声も聞く。通勤のための路線バスを朝夕 2~3 便出せば、大阪まで行かなくても市内で働くことができるので、良い知恵があれば出してほしい。

- 参加者 : 今後、生駒市とどのような関係をつくることができるか考えたい。
- : 議論にあたっては、出口を意識する必要がある。総合計画の「地域の資源と知恵を活かし、にぎわいと活力のあるまち」以外の縛りがないというのは、かえって議論が大変であり、また、5 年も経てば計画が忘れられてしまうこともある。そうならないためにも、例えば国では「○年後に数値を達成するため、こうした施策をやる」といった数値目標を設定している。本気でやるならそれくらいのことは考えても良いのではないか。
- : また、高齢化など全国共通の課題と、生駒市特有の課題を分けて考えた方が良いのではないか。それと、市外で働く 75% の就業者をターゲットとする（市内事業所＝働く場を増やす）ことと、新たに県外の人を呼び込むのは別の話。課題を分けて整理した方が良い。
- 参加者 : 県外で就業する比率が高いことも関係するが、当社のバス輸送も居住者の生活スタイルに対応し、駅前中心にルート化している。
- : 市内の観光資源は、奈良や大阪に比べて、ここに必ず行きたいというインパクトは弱い。市民向けには旧生駒のイベントであるどんどこまつりや、平成 26 年に近鉄が行った高山地区をスタート（ゴールは学園前）とするウォーキング（参加者 3000 人）があり、当社も輸送に協力している。たつた揚げプロジェクトも目にする機会が増えたとし、酒蔵を巡るまち歩きなども考えられる。行政や観光協会と連携し、鉄道も含めてこうした取組をうまく取り込んだ施策を考えたい。
- 参加者 : 生駒市はベッドタウンとして安定期となり、高齢化が進んでいる。開発も含めて、いかに産業起こしをして、稼ぐ力をつけるか。奈良県でもリーディング産業、チャレンジ産業を設定し、産業おこしの取り組みを進めている。奈良県の宿泊業はキャパシティが小さく、また観光業は季節変動が大きいという課題がある。一方、奈良の観光価値は高まっており、また掘り起こせば資源は多い。
- : 奈良には理工系の学部がある大学が少なく、奈良先端科学技術大学院大学との連携についても積極的に進めていきたいと考えているところ。
- : 漢方のメッカとして漢方薬の生産・販売のモデルづくりをしていくことも、チャレンジ産業のひとつ。こういう資源があるということも、他ではまねできない奈良県の特徴である。
- : このほか多様な取組を進めており、成功と言える企業も現れている。その成功要因を分析し、施策につなげられるよう、日々考えているが、いまだ正解は見つかっていない。しかし「人」が最も大切であることは間違いなく、どのように人材を発掘し、支援していくかを重視している。県と市町村との「まちづくりに関する連携協定」も県内の自治体と締結しており、モデルといえるものになっているのではないか。

- 参加者 : どこまで本気でやろうとしているのか。説明で観光はいきなりインバウンドではないという話があったが、産業の中に観光を取り込み、伸びる部分をビジョンに位置づけようとするならばインバウンド抜きには考えられない。そういう意味で、どこまでやろうとしているのかを整理し、資料を提示した方が議論は進みやすい。他の参加者からはインバウンドも考えたいとの意見があったが、官民で意識に差がある。
- : 観光が産業として成り立たない場合、何度か来訪してもらうことで将来の定住につなげるという取り上げ方しかない。産業化するならクラスター化してお金が地元落ちるようにしなければいけない。一方でゴミの増加といったことへの批判もある。
- : 商業も経営者の高齢化など全国どこでも同じという課題があり、それがわかっていれば、あとはどこまで本気でやるかという意欲の問題になる。例えば「大規模店＋商店街」による組織にテナントリーシング権（空店舗にテナントさんを探して出店契約をする権利）を持たせるというところもある。但しこれは私権に関わるテーマでもあり、議論が必要。議論を深める上では、商店街の合意をとりつけていくといったことも必要になる。
- 参加者 : 懇話会のメンバーとして、産業振興のための重点について検討し、結果に対して可能な限り協力したい。そのためにも抽象的なものでなく、具体的な施策について議論したい。
- : 生駒市の特徴、あるいは弱点は何か、それをどうとらえて施策を実施していくか。ヒアリングやアンケートの結果を踏まえながら議論していきたい。
- : ビジョンをつくって終わりではなく、どのようにビジョンを機能させるかが大切。実効性のある施策を位置づけたい。例えば助成や補助ならどこにニーズがあるのか、あるいはマッチングやB to B 支援にニーズがあるのか、ニーズがあるところに手を打つべきだろう。金融によるサポートだけでなく、様々な施策・活動を連携させて、相乗的な効果が出るよう、当行も側面からサポートしたい。
- 参加者 : 当財団は高山サイエンスタウンにあるが、タウンといいながら夕方になると人が歩いていない。バブルが弾けたことで企業立地が計画どおりに進まなかったこと、またNECが転出したことなども影響したのだろう。
- : 高山サイエンスプラザは、建設から20年が経過し建物は老朽化が進み、支援事業の継続も不可欠であり、財政的には厳しい。今後とも交流施設としての役割を果たしていくため、限られた資源のなかでどのような取組をしていくか考えたい。
- : 高山第2工区についても併せて考えてほしい。北田原は企業立地が進んでいるが、こちらは進んでいない。けんはんなの中央に位置しながら一体感が欠けている。

- 参加者 : 全国的に農家の高齢化が進んでおり、農地も空洞化しつつある。若い人に生駒に来てもらう手立てとして8月28日にも婚活イベントを実施するが、野菜づくりなど農地経営にいかに関わってもらうかについても考えたい。健康のためのレモン栽培など薬草園を増やすといったことも考えてはどうか。
- : 耕作放棄地の増加はまちの美観も損ねる。農地を活かしていかに産業振興をしていくかも大切。
- 参加者 : I Tによって地域課題を解決しようとする活動が全国で広がっている。6次産業化や女性が働く場づくり、子育て支援などの分野でもI Tが活躍できる。
- : インターネット上でまち歩きができるアプリケーションやネット上に観光スポットを紹介するサイトなどがあるが、生駒市内ではそうした情報がきちんと伝えられていない。それがちゃんとできる仕組みを考えたい。人を回遊させる仕組みをつくり、来訪者を増やす必要がある。駅前アンテナショップも、もっと外にアンテナを伸ばすという意識が必要ではないか。
- 参加者 : 今年度から生駒商工会議所青年部の会長を務めている。メンバーが近年減少していることから、会員の確保にも力を入れている。
- : 市内で事業所は増えているということだが、代表者が40歳までの事業所は少なく、昔から操業している中小企業では後継者が後を継がずにサラリーマンになるケースが増えている。アンケート結果などを重視して、起業しやすい環境づくりや後継者づくりについて考えたい。
- : 高山で茶釜製造の仕事をしておるが、昼間は若い人が全くいない。企業も少なく、NECが撤退したこともある。関西学研都市のなかでも魅力ある地域であり、高山第2工区も含めて地元の意見も聞き、自然を残しながら開発をしてもらいたいと思う。近くのまち、例えば京都府精華町をみると、企業立地と住宅整備がバランス良く進んでおり、若い人も増えている。生駒市内でも若い人が増えている地域もあるが高山などは高齢化が進んでおり、こちらでもバランス良く開発が進めばと個人的には期待している。
- : かつては花嫁修行という名のもと、茶釜も多く売れていたが、最近は人口の減少とともに需要が減少していたが、ここ3年くらいに限ると、人件費の高騰等で中国製品の価格が上がり、国内産や伝統工芸品の見直しなどで、製造行程の見学や茶釜の体験依頼なども増えている。今後は海外の展示会等にも積極的に出展・PRし、いずれは海外で、そして国内でも流行らせたいと考えている。そのためにも生駒に来てもらい、生駒の良さを体験してもらうことが大切だと思う。
- 座長 : それぞれの立場から発言いただき、今後の議論の参考になるご意見もあった。特に事務局には2点について検討をお願いしたい。
- : ひとつはどこまで、どういう風に進めるか、数値目標の設定も含め、見える形で提示してほしい。
- : もうひとつは2つの分科会をあまり縦割りにしてしまわないというこ

と。様々な立場から異なる意見があるからこそ、新しいアイデアが生まれる。ゴールの設定も含めて、2つの分科会の融合を図ることも検討課題である。

## 6 その他

座長：今後の日程調整について用紙を配布するので、閉会后、日程のご都合を記入いただき、事務局に提供してほしい。

事務局：最初の挨拶で、あえて単純な、あるいは単なる産業振興に止まらないと申し上げたのは、例えば現在約5000戸あると言われる空き家をそのまま外国人向けの民泊に活用しても、何らまちと関わることなく、単なる「寝に来るだけの場所」になってしまうようなこととは避けたいということ。

：また、生駒を住む場所として決めた人のなかには閑静な環境を求めた人も多い。最近はその「ただ住むだけ」のまちから脱却し、市民活動も活発化し、観光関連のイベントも多い。生駒山も市外の人からみれば魅力的な観光資源であり、多様な文化財もあり、パワースポットとして活用することへの期待もある。宝山寺参道は都市計画上、商業地域に指定されており、建物の利活用の幅は広い。一方、北・南地区は市街化調整区域が多く、活用範囲には制限があるが、ハイキングやウォーキングが流行り、奈良県からのお話もあった薬草も含め、健康対策というのもひとつのキーワードになるかと思う。

：どこまで本気でやるつもりかというご指摘について、我々も計画をつくって終わりという考えはない。良い意見を活かし、目標についても実現可能な範囲で考えたい。また、今後アンケート等を実施していくが、意識と行動には異なる部分もある。アンケートではやりたいという意見が多くても、実際に活動に参加してもらえないとは限らない。そういう心理面も含めて効果的な取組につながる意見を集めたい。

座長：市民ニーズの観点も重要。市民が観光にどこまで、あるいは何を求めているかを汲みつつ進める必要がある。必ずしもどんどん観光客が増えてほしいという意見ばかりではないだろう。目標設定も市民とコミュニケーションをとりながら慎重に考えてほしい。

：他に意見がなければ本日の会議を終了する。長時間ありがとうございました。

## 7 閉会